

百味講たより

平成24年11月発行
発行所大本山増上寺
百味講講報企画部
発行者 安部一郎

第17号



大本山増上寺
執事長 友田達祐

百味講の皆さまには、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

本年七月、八木台下のご下命により、蓮池前内局を引き継ぎ私達七人の執事が就任致しました。

大本山増上寺の最大の特徴は日本の首都・東京に位置する本山だということであります。

御寺院、檀信徒、そして百味講をはじめとする関係諸団体のご支援のもと、八百年御忌の記念事業として諸堂宇が整備され、新たなスタートのための基盤が整いました。

八木台下の再任も決まり、台下の御指導をいただきながら増上寺ならではの事業に取り組んでいきたいと思っております。

若い頃に読んだ田中澄江さんの本の中に

「人間は感謝の生活を送ることが大切です。感謝の生活は『こそ』



という言葉を自分に取り込まないで、相手にさしあげることから始まります」

と書かれていました。古歌にも、

世の中はこそこの二文字のつけ所

治まるもこそ 乱るるもこそ

とあります。「こそ」というたった二文字のことでも、つけ所によって随分世の中は変わってくるということでありましょう。

どうも私達は「こそ」を自分の方に取り込んでしまうことが多いようです。「私ならこそ」「私がやってあげたからこそ」という具合に、何でも自分中心にものごとを考えがちです。

しかし皆さんで、おれがおれがといていたのでは、家庭ひとつとってみても治まるものではありません。

考えてみれば、私達は自分一人の力で生きてるように思っていますが、実はさまざまなおかげの中に生かされているのであります。

普段気づかずにおりますが、空気があり、水があるから生きていける。自然のおかげ、人々のおかげ、文明のおかげ、何と多くの尊い恵みを受けていることでしょうか。「こそ」の二文字は自分のためにあるのではなく、そうしたはかりしれない恵みに感謝するためにあるわけです。「あの人ならばこそ……」「このおかげあればこそ……」と、あらゆる人、あらゆる慈しみに感謝し合掌できるかどうかで、その人の値うちが決まってくるのもいえましよう。

「皆さまのお力添えあればこそ」成り立っている増上寺であります。「増上寺あればこそ」と思っていただけのような本山にするべく努力いたす所存です。

合掌

法然上人像奉安の勝縁をいただきます

佛師 山本 兼老和

東日本大震災という未曾有の悲しい出来事によって、一年間延期された宗祖法然上人八百年御忌大会が、本年四月一日開白を迎えた。

その日は圓光大師堂へと向かった。お納めして以来、お逢いするのは一年三ヶ月ぶりである。お念仏を称える声が一瞬と大きく聞こえた時、お堂の正面に辿り着いた。御尊像を正面奥に捉え、大変大きく威厳を感じられた。ご法座に着かれて一年三ヶ月、すでにお堂の御本尊、法然上人であられた。

今を遡ること約四年前、正式に奉安の依頼を請けた。御正当の年一月まで約二年二ヶ月、制作するにあたり次のように決定した。法量は総高さ三尺八寸、身丈（白毫高）二尺、材質は総尾州檜材、木地仕上げ、仏座は吹蓮華仕様となった。また法然上人の御齡の想定について、

お山より次のようなお話があった。「当山が所蔵する七幅の（御影）の中から、今回事業開始時に制作した初回版のポストターとして採用したもので、当山の什宝となつている。御影は壊色の大師七条と窺える袈裟を被着し、百八念珠を操りながらの柔和なお顔をたくわえたお姿で、袖書きに元久元年四月六日とあり、拝察すれば円寂の八年前七十二歳頃のお姿と思われ、これを参考にさせていただきたい」とのことであった。

私は、一年間毎日御影のポスターを観ながら、また機会があるごとに各地の法然上人に逢い、七十二歳の法然上人を思い描いた。まず制作する上で、粘土にてお顔の原型作りに入り、一年間の思いを込めた。迷いもあり、不安もあった。果たして広く皆様に法然上人七十二歳の御尊像として、受け入れていただけるだろ

うかと。しかし、一年間思い描いたものは間違いない、自分を信じ、自分が良いと思えば、必ず良いと言っていただけだと強い思いを胸に制作を続けた。

御尊像全躰の原型も作り、木彫へと移ったが、その制作段階に入っても苦慮したのは、やはりお顔だった。粘土と木材と素材の違いで、原型と同じに彫ってもお顔の感じが違ったように見えたりした。膨よかな法然上人であられても七十二歳ともなると頬は少し瘦け年齢を感じさせるのではないか、どのくらいだと七十二歳へ近づけるのかなど、完成までお顔の表情は特に時間を懸けた。しかし、彫っては眺めをしているうちに、御尊像の方から答えを出してくれる、そんな不思議な感覚を受けて仕上がった。振り返れば、懸けた時間は決して無駄ではなく、御尊像と会話をしていたように思う。

さらに御尊像の手にされている念珠はお像と共の木で制作し、左手には玉を一つ摘んでいるように彫り出した。光背は丸く外側の円に截金という技法で金箔で



縁を取り、円の内には砂子蒔で金の蒔き
暈しをし、吹蓮華座の蓮弁は、弥陀の四
十八の誓願に習い、四十八枚を吹いた。
これら約二年もの間の、私なりの熟考、
工夫を皆様の頭の片隅にでも置き、ご覧
頂けると幸いである。

最後になりましたが、これからも念仏
道場として広く皆様に、法然上人のみ教
えを継承されていくことを願ひ、この勝
縁をいただけたことに深く感謝申し上げ
る次第です。

平成二十四年八月三十一日もって私
は七年五ヶ月講元活動を終止符を打ち
ました。

これまで十六歳の秋に家業を手伝い
五十年前の法然上人七百五十年御忌大
法要に奉仕させて頂き、今回の法然上
人八百年御忌大法要に大本山増上寺御
用達百味講元として、御忌大法要並
びに記念事業計画の縁し合い、大変に
人生の勉強をさせて頂き、いただいたことは
感謝と慶びにたえません。

初代熊吉加法衣商を起し、大本山増
上寺様と縁結び、法然上人の「お徳」
を称える、五十一年一度の行事を二度
の勝縁に出合うことは、先祖の徳の賜
と感謝しております。

法然上人お徳を頂き、糧として生活
して来た人間として今この時「報恩感
謝」で五十年一度の奉仕をさせて頂き
万感胸に迫る思いがあります。

関係各位皆様、百味講員各位のご
支援の賜物であります。
衷心よりお礼申し上げます。

平成二十四年十一月吉日

大本山 増上寺御用達
百味講前講元 古鳥 浩 拝

百味講講元終えて

百味講前講元 古島浩 拝



平成二十三年に五十年に一度の法然上人八百年御忌大法要並びに、記念事業が計画され進行中でした。

平成十八年十一月二十五日には、記念事業の一環として、総本山知恩院に予てより、幾度もの交渉にあたり、大本山増上寺八十世ご成田台下、江口執事長のお二方の熱意が受け入れられ、法然上人のお身柄一部が箱根の山越えて、東雄大本山増上寺に六時二十分、山門前に到着し、浄土宗八百年有年の歴史的一大行事の実質的スタートしました。

開門式の後、「お身柄」は、ご法主成田台下より江口執事長に手渡され、胸元に抱かれ、田勝道奉賛局執事の先導でお練り行列が行われ、我が百味講は抹茶色の祥天姿に提灯をかかげ持ち、お練り行列に花を添え、百味講として歴史的一大行事に奉仕することを並びに法然上人に

報恩感謝で報いることが出来たことは、この上ない慶びであります。

法要後の江口執事長の謝辞の中で法然上人のお徳と一大事業を成しえた慶びとで法然さまが今、箱根の山を越える歴史の瞬間の時は、感謝と感涙に全身の震えを抑えられなかったと述べられました。

平成十八年十二月二十九日、突然江口執事長様が西下され阿弥陀様の台元へ行かれたことにより、平成十八年三月十三日付けで楠美知仁執事長就任して、「大殿改修」「学寮建設」お身柄を奉安する「圓光大師堂の建設」老朽化著しい「安国殿の新築」等計画進行中であります。

平成二十年夏頃より本格工事に着工の予定であります。

宗祖法然上人の「み教え」報恩感謝する為に執事長陣頭指揮で全国各寺院に執事共に、足を運び勸募を懇願に東奔西走しているところであります。

我が百味講でも法然上人八百年御忌大法要に十座のお練り行列が有り準備中であります。

ハード部門の宇堂改修新築建設記念事業の勸募には、百味講として、例会に勸募積立して、金貳百萬圓也の奉納させていただきます。百味講各講員各社が努

力し、勸募に多大な協力をしました。

平成二十年九月六日に大本山増上寺ご法主成田有恒大僧正台下ご遷化なされました。

平成二十一年三月十二日に大本山増上寺八十八世ご法主八木季生大僧正台下晋山され、先の二上人の計画立案の「大殿の改修」「学寮の建設」と知恩院さまから拝領の「お身柄」を奉安する「圓光大師堂」も九月一日竣工し、「お身柄」を奉安することが出来ました。

平成二十二年十月十五日に「安国殿」竣工式が、行われました。

平成二十二年十月二十二日この日の朝突然楠美執事長ご遷化の報に接し、驚きと悲しみに、言葉を失いました。

宗祖法然上人の「み教え」に報恩感謝する時がやって来ました。

お書きになったお言葉が、忘れません。

ご法主成田台下の代務と全国寺院勸募にと毎日東奔西走された有りしのお人柄とお姿が偲ばれます。

平成十三年五月江口執事長もとに入局し、十年にわたる教務部長重席を果たされました。

蓮池光洋上人が平成二十二年十一月五日付けにて、大本山増上寺蓮池光洋執事

長が就任されて、「大殿改修」「安国殿新築」「園光大師堂新学寮新築」等の内外改修が見事に完成し、平成二十三年三月十日に落慶式を盛大のうちに厳修されました。

四月からの大法要の八百年法然上人御忌大法要待つばかりでした。翌日の三月十一日に東日本大震災が起こり、八百年御忌大法要等は一年延期の決定され、総本山知恩院法然上人八百年大遠忌法要は、東日本大震災の為、半歳延期になり、十月から行われました。

大本山増上寺は第八十八世ご法主八木季生大僧正台下のもと、平成二十三年十月二十一日に、縁山流声明法式並びに増上寺御忌お練り行列を持って、西下し、晴天下和順会館前より、「錦のみ旗」先導本山重役諸大徳上人講元関係者が参列し、お練り行列がなされました。

我が百味講が「錦のみ旗」、金棒、大傘のお練り行列の主役を演じました。八百年法然上人大遠忌法要中で百味講が歴史の一大行事に足跡を残すことは、この上もない慶びです。五十年一度勝縁に講元して、合うことは慶びにたえません。平成二十四年四月一日から十一月まで八百年御忌大法要が十座のお練り行列が

行われて、盛大に固成されて、感激、感涙共に報恩感謝で報いた思われます。

記念事業の宇堂改修新築事業における「大殿の改修」では、莊嚴佛具修復を(株)安田松慶堂請負、かつ、「安国殿新築」では、莊嚴佛具を(株)瑞祥浜田が請負「園光大師堂」奉安する法然上人ご尊像製作を佛師、山本築老和氏が、奉安することが出来ました。

百味講たより、十二号で「八百年御忌事業に寄せて」の文章で三社が既に、受注を受けたような文章で誤解を抱くと、八百年奉賛局からお叱りを受けました。三社が受注を受け講元して、安堵しました。

八百年記念行事のソフト部門で「法然上人二十五霊場巡礼の旅」に講元して、代表参拝し、法然上人の「み教え」色々と、勉強させて頂き、法然上人の「み教え」の再認識させられました。

法然上人八百年御忌大法要並びに記念事業時に、講元して、奉仕出来たことは家業を法然上人お徳頂き生業して家業三代に亘る譽です。

増上寺諸上人、職員、講元、関係各位、ご指導を深く感謝申し上げます。平成二十四年十一月吉日

就任のご挨拶

百味講講元 安部 一郎



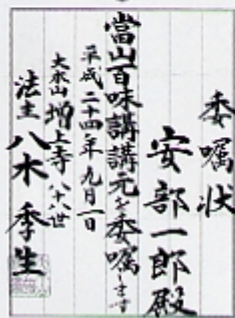
拝啓 初秋の候
講元皆様のご健勝
の程お慶び申し上げます。

この度古鳥講元
は法然上人八百

年御忌の大役を無事成就され今期で辞任されました。今までのご奉仕に対して感謝申し上げます。それに伴い八月の定例会において後任の講元に私が講元皆様を推挙され大変責任を感じております。

九月一日付け大本山増上寺より委嘱状をお受けいたしました。

これからは講元皆様のご指導、ご鞭撻を頂きながら増上寺様の各行事に協力し又、講の発展の為に尽力する所存でございます。



六月十七日 東京プリンスお於て

味ごよみ一心 廣中氏

厚生労働大臣受章並びに古希のお祝会
挙行されました。
「お日出度うございます」



株式会社味ごよみ一心
廣中久見社長 厚生労働大臣賞受章・古希の祝い記念祝賀会

百味講年度事業報告書 (平成24年1月から平成24年12月末まで)

一月十五日	正五九法要 安国殿お於て 大本山増上寺 瓦礼会大殿・三光攝殿ホール
一月十九日	講中役員会
一月二十二日	ひまわり講 新年会 講元、副
一月二十四日	浄光会 朝粥会 執事
二月三日	百味講新年会並懇親会 牡丹
二月十五日	大本山増上寺 節分 追儀式
二月十七日	円山稲荷法要
三月七日	講中役員会
三月二十三日	百味講総会
四月一日	法然上人八百年御忌大法要 準備天陽院
四月二日	静岡教区善龍寺 向山瑞成上人
四月三日	宮城教区 大願寺 佐藤良隆上人
四月四日	東京教区 玉川組浄眞寺 清水英碩上人 唱
四月四日	東京教区 性翁寺 野口竜栄上人
四月五日	山梨教区 尊鉢寺 磯貝大徹上人
四月七日	東京教区 東京教区長正覚寺 鈴木宏佑上人
四月六日	埼玉教区 廓信寺 湊見成昭上人
四月六日	大本山増上寺 布教師会会長 工藤教昭上人
四月十日	茨城教区 報國寺 瀬戸隆海上人
四月十五日	法然上人八百年御忌大法要 慰労会
五月二十七日	子育て地藏尊大法要 西向き観音・熊野神社祈願会
五月二十八日	百味講研修旅行 東北地方、釜石
六月十七日	秋保温泉
六月二十一日	味ごよみ一心 廣中氏厚生労働大臣賞受章並びに古希のお祝会 講元 代表出席
七月六日	例会並びに大本山増上寺 課長懇親会
七月二十七日	築地 田村
七月二十八日	講中役員会
八月二十一日	地藏尊盆踊大会
八月二十七日	東京スカイツリー見学と新執事懇親会
八月二十八日	暑気払例会 浅草むぎとろ
九月十五日	大本山増上寺へ講元辞任お願い届け
九月二十九日	正五九法要
十月十七日	大本山増上寺 薪能 太田副講天外一名
十一月	百味講例会
十二月十日	声明と舞楽の夕べ 百味講忘年会 東京湾ディナータイムクルーズ

浄土宗
袈裟・法衣専門

(有) 吉野法衣店

〒160-0012 新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168 FAX 03-3355-2204

御袈裟・法衣専門

太田法衣店

〒121-0076 足立区平野2-15-16
TEL 03-3883-3225 FAX 03-3883-1634

伝統の技
三代にわたる信頼

(有) 古島法衣店

〒111-0041 台東区元浅草4-2-1
TEL 03-3842-1289

総合美術印刷

(有) 協栄社

〒135-0007 江東区新大橋2-14-8
TEL 03-3631-4758 FAX 03-3631-4767

仏壇・仏具

(株) 瑞祥浜田

〒111-0042 台東区寿2-9-13
TEL 03-3844-9473 FAX 03-3844-5017



大本山 増上寺 御用 達百味講

表装・額装・襖一式

石森表具店

〒105-0014 港区芝3-18-7 長田荘102号室
TEL 03-3451-3138

佛像彫刻・文化財保存修復

佛師 山本 架老和

〒145-0063 大田区南千束3-28-5
TEL 03-3727-1122 FAX 03-3727-1122

仏壇・仏具

(株) 安田松慶堂

〒104-0063 中央区銀座7-14-3
TEL 03-3542-5771 FAX 03-3546-2140

増上寺謹製・三縁クッキー

(有) ポエム洋菓子店

〒174-0046 板橋区蓮根1-18-11
TEL 03-3966-2324 FAX 03-3966-2398

念珠・記念品

(有) 平野屋営業部

〒113-0034 文京区湯島4-5-2
TEL 03-3818-6501 FAX 03-3818-6508

音響・映像

(有) ボブス

〒145-0067 大田区雪谷大塚町7-10-703
TEL 03-3729-5148 FAX 03-3729-5149

葬儀・式典企画運営

富士典礼

〒142-0031 品川区豊町4-3-17
TEL 03-5434-2210 FAX 03-5434-0860

葬儀のご用命は
古い信用・新しいサービス

(株) 牧野総本店

〒108-0074 港区高輪1-21-1
TEL 03-3445-0506 FAX 03-3445-0508

懐石料理

(株) 味どよみ一心

〒105-0011 港区芝公園2-6-8
日本女子会館1F
TEL 03-3438-1041 FAX 03-3438-1044

各種ご用命は
御本山御用達の百味講
各店へ!



大本山 増上寺 御用達 百味講

創業寛政二年 七代目

(有) 石政石材店

〒108-0071 港区白金台4-5-7
TEL 03-3441-1483 FAX 03-3441-3156

思いとどける ころろ伝える。

(株) 日本香堂

〒171-0014 豊島区池袋3-18-12
TEL 03-3973-7111 FAX 03-3974-5647

お花で思い出を永遠に

(株) 花 幹

〒143-0024 大田区中央8-36-5
TEL 03-3755-2120 FAX 03-3754-4687

「たび」のことならすべておまかせを!!

東武トラベル(株) 東東京支店

〒110-0005 台東区上野5-16-12
サンライズ第一ビル3階
TEL 03-5807-7311 FAX 03-3833-2200

Blank business card template.